

城北埼玉中学校・高等学校 入学希望者 Q&A

9月17日掲載

Q1：本科コースとフロンティアコースの違いはどのようなものですか？

A1: フロンティアコース（以下FC）は令和2年度の高1生から学年1クラスでスタートしました。本科では上位の大学進学を目標とし、高2から文・理に、高3では文・理×国公立・私立の4コースに分かれて学ぶのに対し、FCでは大学進学はもちろんのこと、その先の長期にわたる実社会での活躍を意識し、文理融合型のカリキュラムでプロジェクト型学習やフィールド・ワークなどの体験学習に注力しています。SDG's（環境保護、貧困の撲滅などの国連の持続可能開発目標）を参照枠としながら実社会の課題解決を通じて、本物の「生きる力」を育成します。

FCの生徒は1人1台のiPadを活用しチームで連携してプロジェクトを進めたり各自の関心のある学びを深めたりしています。効率を求めるのではなく、身の回りのものすべてが学びの教材であり、好奇心のアンテナを張って学習活動をしています。

※学校HP（[フロンティアコース活動記録](#)）および高校の学校案内P5－6を参照してください。

Q2：男子校の長所を教えてください。

A2: 異性の目を意識することなく興味のある活動に没頭しやすい環境があります。本校生徒は個人でもチームでも学習活動だけでなく部活動や行事など様々な活動に熱心に取り組んでいます。数多い部活動・同好会の中にはかなりマニアックなものもあります。

日本では戦後の学校制度改革で、多くの学校の共学化が進みましたが、埼玉県の進学校の一部は今もなお男子校、女子校のままです。男女別学のメリットを実感しそれを手放すことを拒否しているようにも見えます。

施設利用や修学旅行等の宿泊行事などでも別学のメリットがあります。特に運動部活動では共学校では例えば男子サッカー部・女子サッカーのように男女別に活動する競技やチアダンス部（女子）など、女子だけ、男子だけの部活動もあり、限られたグラウンドや体育館、合宿所利用のローテーションがひっ迫します。

体育の授業などにおいては男女の更衣室の確保などでも多くの共学校が苦勞しています。

Q3：新型コロナ臨時休校中の学習面での学校の対応を教えてください。

A3: 3月から5月は臨時休校、6月1日から13日までを分散登校としました。当初からの紙ベースの課題、担任の電話連絡に加え、4月からはICTを活用した対応を進めました。前年度までに中高ともスタディサプリ、高校ではClassiも導入済でしたので、まずそれらのフル活用を始め、5月からは本校教員のオリジナル授業動画と組み合わせ、学年ごと週単位で計画的に学習を進められるよう支援しました。新入生（中1、高1）には授業動画に加

え「ジョッタマ体操」や ALT の英語クイズ、校長からのメッセージなど様々な動画を配信しました。高校ではオンラインでのホームルームも実施しました。

時系列の概要は下記のとおり。

【学習課題配信】

- ・4月10日からスタディサプリのログイン確認（中高全6学年）
- ・中2、中3、高2、高3は4月15日から、中1と高1は4月20日から週単位の時間割を配信し1日4コマ×6日（月～土、週24コマ）の学習を開始（紙ベースの課題・スタサプ動画・5月からはオリジナル授業動画の組み合わせ）
- ・5月11日から本校教員による授業動画の配信開始。全校で毎週数百本（例：高3私立文系の5月18日からの1週間で31本）、6月の分散登校時まで継続。

【ホームルーム・家庭連絡】

- ・4月中旬から学年ごとにスタディサプリのメッセージ機能、Classiの通信機能、Microsoft Teamsなどのオンライン会議ツールを組み合わせ、個別の連絡やオンライン・ホームルームを実施しました。（高2、高3は5月中旬以降クラスごとに順次 Teams でのリアルタイム、双方向のオンライン・ホームルームを実施し9割以上の生徒が参加）

Q4：授業等での ICT (PC、タブレット等の情報機器) の活用はどれくらい進んでいますか？

A4： 令和2年度中にすべての教室に Wi-Fi 環境とプロジェクターが整備されます。Q3にあるようにスタサプ、Classi、オンライン英会話など各種のオンライン・サービスを活用しています。今年度新設されたフロンティアコースでは1人1台の iPad が配布され、校内でも自宅でも活用されています。来年度（令和3年度）入学生からは中学生、高校本科生にも1人1台の iPad を配布する計画です。

Q5：授業以外にどのような学習支援がありますか？

A5： OB スタッフ学習支援隊(本校を卒業した大学生・大学院生)が、放課後に授業についての個別の質問や大学での学びやキャンパスライフに関する質問に対応したり、放課後の補習では、教員と一緒にチームティーチングで生徒をフォローするなど、生徒の必要に応じて様々な支援をしています。

JS ノート（中学生対象）は、授業を生かすための予習・復習を中心とした家庭学習の習慣を身に着ける重要なツールとなっています。

新聞ノート（中学生対象）は、SDGs を意識し社会に目を向けさせ、時事問題を通して、世の中の諸問題について保護者と話し合い、自分の考えをまとめ伝える力を養成します。学習の動機付けや進路を考える上でも効果があります。

長期休業中は中学生には上位の実力を伸ばす勉強会、苦手科目の克服を目指す指名補習を実施します。高校生には、大学入試問題突破を見据えた希望制の講習会（1、2年生）や受験講座（3年生）を実施します。

英語の四技能の強化や検定試験への対応にも注力しています。中 1 から高 1 まで毎年実施するイングリッシュ・キャンプでは、専属 ALT が少人数チームに入り、学年に応じた取り組みを集中的に体験します。

Q3にあるように家庭でも利用できるオンライン・サービス（スタサプ、Classi、英会話）の活用も進めています。

Q6：城北埼玉生はどれくらい塾・予備校に通っていますか？

A6： 本校では難関大学の入試問題に即応できる指導力を備えた教員団がレベルの高い学習指導を展開しています。さらに本校OBスタッフによる放課後の学習支援活動をほぼ毎日実施するなど、Q5にあるような授業以外の学習支援も充実させています。

高校3年生には学期中も夏休みなどの長期休業中も無料の講習会、受験講座が開設されており、塾・予備校に頼ることなく、入試に必要な学力を身につけられるプログラムが用意されています。また、理解の遅れている生徒には別途補習を実施し、全員が授業についていけるよう留意しています。

そのため、中学はもとより高校においても通塾生は少数です。

Q7：中学からの入学生（中入生）と高校からの入学生（高入生）は同じクラスになりますか？

A7： 本科は別クラスです。中入生は学習進度が速く中3の時点で一部高校の学習内容を先取りしています。そのため別クラスでの授業となります。学校行事や部活動はすべて区別なく行います。高3では選択科目などで一緒に学ぶ授業もあります。

対して、フロンティアコースは多様なメンバーでの学びを推進するため、中入生と高入生の混合クラス編成です（比率は 50：50 が理想）。高入生に合わせたカリキュラムを進めていきます。

Q8：中学・高校に特待生で選抜クラスに入った生徒と一般合格で普通クラスに入った生徒は2年次以降のクラス編成でどうなりますか？

A8： 中学・高校とも特待合格（高校は A 特待、B 特待のみ）で入学した生徒は1年次に選抜クラスに入ります。ただし、2年、3年への進級時には、1年間の成績で選抜クラスのメンバーを入れ替えます。選抜クラスも普通クラスも同じ教育課程、教科書、進度で授業をしているため入れ替えが可能です。実際、毎年多くの入れ替えがあります。普通クラスの生徒が学年トップの成績をとることもあります。

Q9：進路指導の目標や方針を教えてください。

A9： 「人間形成と大学進学」が本校の教育活動の二本柱です。「大学進学」については難関国公立大をはじめとする第一志望大学現役合格を目標とします。ただ、学力第一主義の大学進学だけがゴールではなく、教養を深め、探究心を高める多彩なプログラムにより、学ぶ

ことの原点から考えます。

Q10：大学進学実績を伸ばすためにどのような取り組みをしていますか？

A10: 中学では、模擬試験を活用しながら授業の理解度を測り、英語・数学を中心に勉強会や補習で、徹底した基礎・基本を身に付けます。高校では、3年生は参加者一人でも実施する受験講座を放課後に実施したり、1・2年生から宿泊を伴う勉強合宿を実施しています。生徒の特性をよく知る本校教員の講習会で、第一志望大学現役合格を叶えます。Q5、Q6もご参照ください。

Q11：フロンティアコースではどのような進路目標に向かってどのような取り組みをしていますか？ 本科との違いは？

A11: フロンティアコース（以下FC）では生徒自身が学びへの欲求を満たせる進学先を選択します。特定の大学群や学部・学科系統への進学を目標に掲げることはあえていたしません。Q1にあるように、体験型の活動をふんだんに取り入れ実社会で役立つ資質・能力を育んでいきます。課題解決力、好奇心・探求心、チームワーク、リーダーシップ・フォロワーシップ、情報リテラシー、ICT活用力、プレゼンなどの表現力・コミュニケーション能力などです。

発足初年度のためまだ進路実績はありませんが、入試偏差値など他人との比較（相対評価）による外形的な指標で進路を選ぶのではなく、自分の興味・関心に基づいて主体的に進路決定・実現を果たせるような人材を育成することを目指しています。国内外の大学その他の様々な教育機関や就職も含めてすべての可能性があります。大学入試等においては一般入試だけでなく、総合型選抜（旧AO入試）や学校推薦型選抜など多様な選抜において、また就職試験などでもFCで身につけた能力が活きるものと期待されます。

Q12：中学入試問題の傾向と対策を教えてください。

A12: 中学入試問題は、4教科とも基礎から応用を含めた幅広い範囲から出題をしています。出題傾向は変えておりませんので、過去問題集等を参照していただければ、その内容はご理解いただけます。なお、12月に開催される学校説明会では4教科の出題担当から出題のポイントを説明させていただきますので、ぜひご参加ください。

Q13：高校入試問題の傾向と対策を教えてください。

A13: 高校入試問題は中学3年間で得た基礎学力を検査する出題内容としており、出題範囲は「中学校学習指導要領」に定める内容です。また、5教科型入試においては出題範囲、出題形式とも埼玉県公立高校の入試問題を参考としておりますので、そちらもご参照ください。

なお、2021年度入試においては、新型コロナの臨時休校の影響を考慮し埼玉県及び東京都

の教育委員会が発表した試験範囲に準拠します。その範囲を超えた出題はしません。

Q14：昼食はどうしていますか？ 食堂の利用、弁当の持参の状況を教えてください。

A14: ドーム型で 400 席以上の広い学食があり、定食・麺類・丼物など約 20 種類の豊富なメニューがあります。中学 1 年生から利用可能です。中学 1 年・2 年生はクラス全員でのスクールランチを週 1 回開催し食育の機会としています(令和 2 年度はコロナ対策のため、座席数を半数以下に減らし一方向で着席。教室で食べるテイクアウト・メニューも提供中。スクールランチも令和 2 年 9 月現在中止しています)。

購買部でパンも購入できます。自宅から弁当を持参してもかまいません。今年度は学食の座席を減らしていることもあり、6 割くらいの生徒が弁当を持参(令和 2 年 9 月現在)しています。

Q15：スクールバスの時間帯や頻度など運行状況を教えてください。

A15: 登校時は 7:00 頃から 8:15 頃に 10 分～15 分間隔で、下校時は授業終了時から 19:55 (学校発の最終)まで運行しています。ただし中学生用の最終バスは 18:10 発としています。本数は 3 方面(東武東上線・ふじみ野駅、JR 川越線・南古谷駅、西武新宿線・本川越駅)の利用人数に合わせて定員内で全員が乗れるよう配分しています。また、鉄道の遅延等があった場合や学校行事等の状況に合わせて時間を調整したり臨時便を出すなどの対応をしています。

Q16：生徒はどのような地域から通っていますか？

A16: 県内外の広域から通っています。市区町別で上位 5 つは、さいたま市:186 人(浦和区 37 人、南区 31 人など)、川越市:77 人、練馬区(東京都):63 人、板橋区(東京都):59 人、朝霞市:47 人、所沢市:45 人。中高合計の 4 人に 1 人は県外在住です。東は三郷市、つくば市(茨城県)、西はあきる野市(東京都)、南は川崎市(神奈川県)、北は深谷市、宇都宮市(栃木県)など。

※詳細は「[R2 在住地別 生徒数](#)」を参照ください。

Q17：部活動の活動状況や実績などを詳しく知りたいのですが？

A17: 中学では運動部 12、文化部 16 のほか多数の同好会、高校では運動部 16、文化部 16 のほか多数の同好会があります。中学から合宿や遠征をするなど本格的な活動を行っています。学校 HP や学校案内をご参照ください。個別の部活動の詳細についてはお問合せください。